

講義ユニット名	系統解剖学		所属科目名	人体構造学
講義ユニット 責任者	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学 (内線 5110)	
		メール	k-ikegami@hirohima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネー ター	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学 (内線 5110)	
		メール	k-ikegami@hirohima-u.ac.jp	
授業方法	講義中心, 講義資料配付, スライド投影, 板書			
概要	<p>「医学一般」の「個体の構成と機能」 「人体各器官の正常構造と機能, 病態, 診断, 治療」の「人体各器官の正常構造と機能」 「全身に及ぶ生理的変化, 病態, 診断, 治療」の「成長と発達」</p> <p>に関連する項目を扱い, 以下のことを目指す.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な生物のひとつの種であるヒトの体について形態学の面から理解する. ・人体の構造を分子レベルから肉眼レベルまで関連づけて把握する. ・人体の構造によりなわれている機能を理解する. ・各器官の構造を知ると共にその機能的意味を諸分野の成果も取り入れながら追究する. <p>端的に言えば, 「人間理解のための人体解剖学 I・II」の発展的内容, および「人体解剖学実習」に関連する内容を学習する.</p>			
講義ユニットの 到達目標	<p>位置関係を方向用語(上下, 前後, 内・外側, 浅深, 頭・尾側, 背・腹側)で説明できる。</p> <p>骨髄の構造を説明できる。</p> <p>脾臓, 胸腺, リンパ節, 扁桃とPeyer板の構造と機能を説明できる。</p> <p>骨・軟骨・関節・靭帯の構成と機能を説明できる。</p> <p>頭頸部の構成を説明できる。</p> <p>脊柱の構成と機能を説明できる。</p> <p>骨盤の構成と性差を説明できる。</p> <p>心臓の構造と分布する血管・神経, 冠動脈の特長とその分布域を説明できる。</p> <p>心筋細胞の微細構造と機能を説明できる。</p> <p>大動脈と主な分枝(頭頸部, 上肢, 胸部, 腹部, 下肢)を図示し, 分布域を概説できる。</p> <p>主な静脈を図示し, 門脈系と上・下大静脈系を説明できる。</p> <p>胸管を経由するリンパの流れを概説できる。</p> <p>気道の構造, 肺葉・肺区域と肺門の構造を説明できる。</p> <p>肺循環と体循環の違いを説明できる。</p> <p>縦隔と胸膜腔の構造を説明できる。</p> <p>各消化器官の位置, 形態と関係する血管を図示できる。</p> <p>腹膜と臓器の関係を説明できる。</p> <p>食道・胃・小腸・大腸の基本構造と部位による違いを説明できる。</p> <p>肝の構造と機能を説明できる。</p> <p>歯, 舌, 唾液腺の構造と機能を説明できる。</p> <p>腎・尿路系の位置・形態と血管分布・神経支配を説明できる。</p> <p>腎の機能の全体像やネフロン各部の構造と機能を概説できる。</p> <p>男性生殖器の形態と機能を説明できる。</p> <p>女性生殖器の形態と機能を説明できる。</p> <p>各内分泌器官の位置を図示し, そこから分泌されるホルモンを列挙できる。</p> <p>副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。</p> <p>眼球と付属器の構造と機能を説明できる。</p> <p>眼球運動のしくみを説明できる。</p> <p>外耳・中耳・内耳の構造を図示できる。</p> <p>聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。</p> <p>口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。</p>			

講義日程	詳細はユニット開始の際に配布する日程表を参照のこと。
出席の取り扱い	3分の2以上の出席を試験の受験要件とする。
評価項目	試験の成績、講義への参加態度（講義中のミニテストへの参加など）
評価法	試験は「人体解剖学実習」も含んだ総合試験とし、講義と実習を通して身に着けた人体構造の理解度を総合的に評価する。
履修上の注意 アドバイス	同時期に人体解剖学実習、組織学が進行中である。 マクロとミクロの両視点で相互に関連させて学ぶことが重要である。
推奨参考書	<p>1. 「解剖学講義（改定3版）」伊藤隆 原著，高野廣子 改訂（2012）南山堂。¥11,880。解剖学の『幹』から『主要な枝葉』を理解するにはちょうど良いボリュームである。</p> <p>2. 「イラスト解剖学（第9版）」松村讓児 著（2017）中外医学社。¥8,208。通称「イラ解」。各項目が1頁から見開き2頁に収められており、項目毎の重要なポイントが一目で分かる。試験前には重宝するだろう。しかし、それ故に単なる暗記になってしまう危険性もあるため、他の推奨図書をメインに、本書は補助の学習教材とするのが好ましい。</p> <p>3. 「臨床のための解剖学（第2版）」K.L. Moore, A.F. Dalley, A.M.R. Agur 原著，佐藤達夫・坂井建雄 監訳（2016）メディカル・サイエンス・インターナショナル。¥15,120。純然たる解剖学だけを学ぶよりも、先取りで臨床と絡めて解剖学を学ぶ方が効率も良く、また、解剖学の意義もより強く感じられることであろう。高学年になっても使える1冊。</p> <p>4. Gray's Anatomy: The Anatomical Basis of Clinical Practice, 41e, Susan Standring 編 Churchill Livingstone。¥21,320（Amazonで2019/3/20現在）。細胞学，組織学，肉眼解剖学，発生学と「人体構造学」の全てをカバーしている。本を買えばオンラインでも全文が読めるkindle版もある。</p> <p>5. 「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」坂井建雄，河原克雅 著（2017）。¥19,440。電子書籍付き。解剖学，組織学，生理学をカバーしており、広く深く人体の仕組み</p>